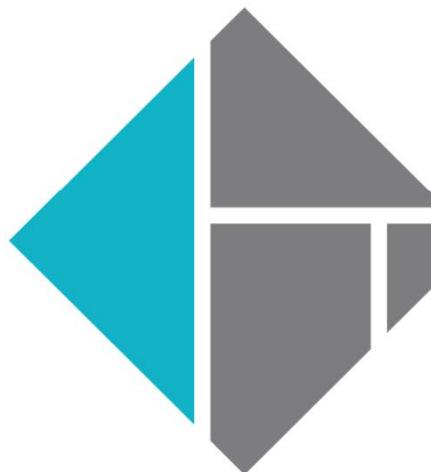


2021年3月期第1四半期 決算説明資料

2020.8.6

TIS株式会社

© 2020 TIS Inc.



(2020年8月6日開催 アナリスト向け決算説明電話会議 プレゼンテーション要旨)

- ・TISの安達でございます。よろしくお願いいたします。
- ・それでは、本日15時半に発表いたしました、当社の第1四半期決算の内容につきまして、決算説明資料を使ってご説明させていただきます。
- ・まず初めに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響ですが、第1四半期では概ね想定したとおり、産業系を中心として受注活動に影響が生じましたが、業績への影響は小さく踏みとどまりました。

2021年3月期第1四半期 業績概要

2021年3月期 業績見通し

参考資料

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。
- ・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。
- ・当社は、2020年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、2021年3月期の1株当たり当期純利益および1株当たり配当金については、当該株式分割の影響を考慮しています。
- ・特定顧客について金融業界に特化した専門的な業務ノウハウをベースとしたビジネスから、当該業種ノウハウの汎用化・テンプレート化した知識集約型のビジネスへの展開により、当該顧客との取引は、2020年3月期は金融IT、2021年3月期はサービスITに計上されています。
⇒影響ページ：5・8・12・15・16

(説明省略)

2021年3月期第1四半期 業績概要

2021年3月期 業績見通し

参考資料

(説明省略)

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による新規受注停滞等の影響を受け、小幅ながら前年同期比減収減益。

（百万円）	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	100,990	100,399	▲590	(▲0.6%)
営業利益	8,059	7,678	▲381	(▲4.7%)
営業利益率	8.0%	7.6%	▲0.4P	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,106	5,527	▲578	(▲9.5%)
四半期純利益率	6.0%	5.5%	▲0.5P	—

特別利益： 5百万円（前年同期比 ▲41百万円）
特別損失： 448百万円（前年同期比 +309百万円）

- ・まず、4ページをご覧ください。
- ・当第1四半期の業績は前年同期比小幅減収減益という結果であり、事業環境が極めて厳しい状況でしたが、概ね通期業績予想に沿った進捗であったと考えています。
- ・経済活動の停滞や企業の業績悪化等の影響を受けたことから、売上高は前年同期比0.6%減の1,003億円となりました。
- ・また、利益面ですが、営業利益は前年同期比4.7%減の76.7億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比9.5%減の55.2億円となりました。

2021年3月期第1四半期 主要セグメント別損益状況（前年同期比）

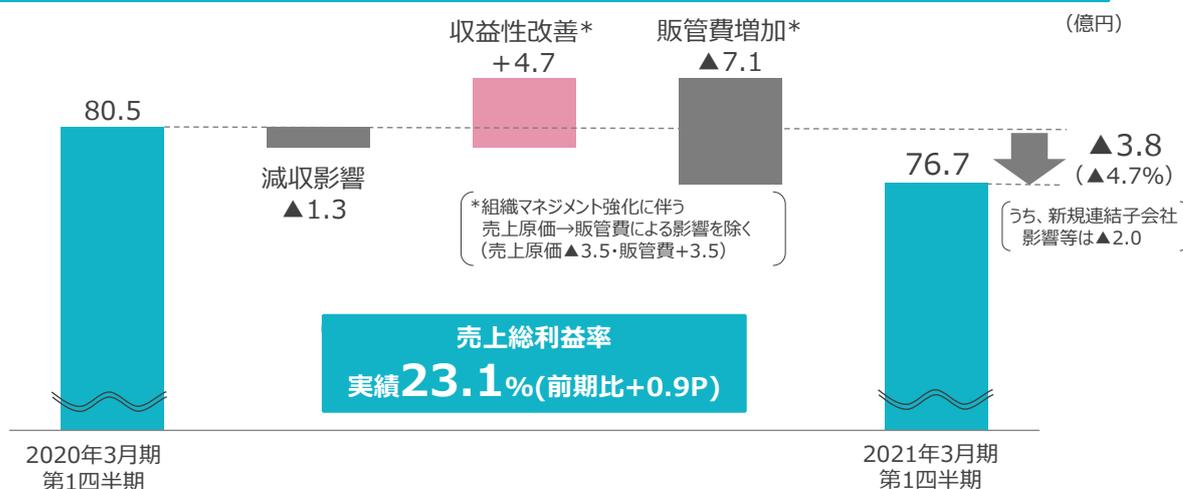
(百万円)		2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	前年同期比	
サービスIT	売上高	28,359	30,148	+1,789	(+6.3%)
	営業利益	1,224	1,144	▲79	(▲6.5%)
	営業利益率	4.3%	3.8%	▲0.5P	-
BPO	売上高	7,861	8,280	+419	(+5.3%)
	営業利益	415	557	+142	(+34.3%)
	営業利益率	5.3%	6.7%	+1.4P	-
金融IT	売上高	26,603	25,721	▲882	(▲3.3%)
	営業利益	3,077	2,774	▲302	(▲9.8%)
	営業利益率	11.6%	10.8%	▲0.8P	-
産業IT	売上高	45,301	43,473	▲1,827	(▲4.0%)
	営業利益	3,266	3,104	▲162	(▲5.0%)
	営業利益率	7.2%	7.1%	▲0.1P	-

サービスIT：ERP関連は厳しいものの、決済関連ビジネスの拡大等により増収。新規子会社連結影響等により減益。
 BPO：コールセンター業務の需要増や給付金対応等を受けて、増収増益。
 金融IT：根幹先顧客におけるIT投資は堅調なものの、企業活動の停滞による案件の遅れ等の影響により、減収減益。
 産業IT：中堅中小企業を中心としたIT投資抑制の動きを受けて、減収減益。

- ・続いて、主要なセグメント別の状況です。
- ・「サービスIT」は、売上高については、決済関連ビジネスの拡大やクラウド等のIT投資ニーズの取り込みにより前年同期比6.3%増の301億円となり、引き続き好調でした。一方、営業利益ですが、事業強化のための先行投資費用の増加に加え、子会社の新規連結影響等により、前年同期比6.5%減の11.4億円となりました。
- ・「BPO」は、売上高については、コールセンター業務の需要増や給付金対応等を受けて堅調に推移し、前年同期比5.3%増の82.8億円、営業利益は34.3%増の55.7億円と、増収増益となりました。
- ・「金融IT」は、企業活動の停滞による案件の遅れ等を受けて、売上高は前年同期比3.3%減の257.2億円、営業利益は前年同期比9.8%減の27.7億円と、減収減益となりました。
- ・「産業IT」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を最も大きく受けており、中堅中小企業を中心としたIT投資抑制の動きを受けて、売上高は前年同期比4.0%減の434億円、営業利益は前年同期比5.0%減の31.0億円となり、こちらも減収減益となりました。

2021年3月期第1四半期 営業利益要因別増減分析（前年同期比）

・収益性改善は継続したが、処遇改善等による販管費増加の影響等により、前年同期比減益。



構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比▲0.4

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
 - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
 - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- } に関するコスト

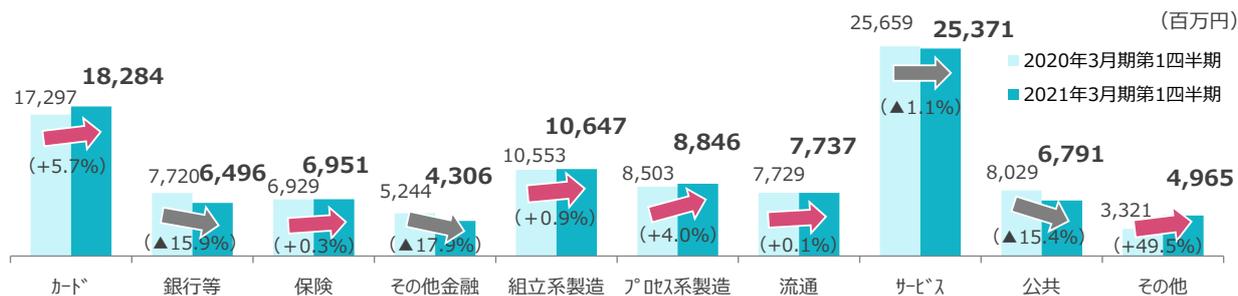
早期認知獲得のためのブランド関連コスト：前年同期比+0.8

<販管費増減>

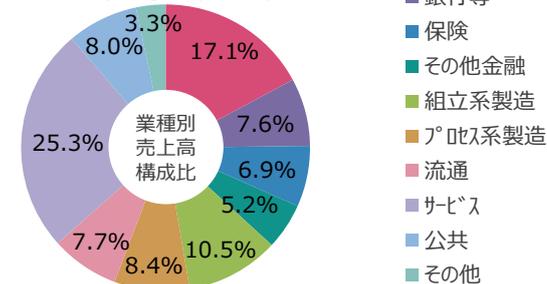
20/3期1Q実績	144.0
組織マネジメント強化	+3.5
新規連結子会社影響等	+2.2
その他増加	+4.9
21/3期1Q実績	154.6

- ・次に、営業利益の要因別増減分析です。
- ・前年同期に比べて、減収影響で1.3億円の利益減、収益性改善で4.7億円の利益増の結果、売上総利益が3.4億円増加し、売上総利益率については前年同期比0.9ポイント上昇の23.1%へ引き続き向上しました。
- ・一方、販管費は処遇改善による費用増を中心として7.1億円増加し、この結果として、営業利益は3.8億円の減少となりました。
- ・なお、当期からの組織マネジメント強化に伴い、人件費の一部を売上原価から販管費に変更しています。第1四半期の影響額は3.5億円ですが、この分は今ご説明した売上総利益及び販管費の増減額には含んでいません。
- ・また、不採算案件の発生は、1億円半ばということで、2億円弱と低水準だった前年同期よりもさらに抑制することができました。今後も抑制を継続してまいりたいと考えています。

・カード好調、製造業も底堅い一方で、銀行は厳しい。その他金融や公共は反動減もあり減収。

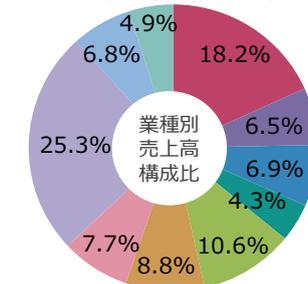


<2020年3月期第1四半期>



金融分野：36.8% 産業分野：51.9%
公共分野：8.0% その他：3.3%

<2021年3月期第1四半期>



金融分野：35.9% 産業分野：52.4%
公共分野：6.8% その他：4.9%

- ・7ページをご覧ください。顧客業種別売上高の状況です。
- ・「カード」は好調であり、「製造業」も底堅く推移しております。一方で「銀行」は厳しい状況にありますが、「銀行」以外で減少している「その他金融」や「公共」は大型案件の反動減を受けている状況であり、実勢ベースで弱いわけではありません。

・受注高は、緊急事態宣言下における新規提案等の営業活動が困難だったことを主要因として、金融IT・産業ITで大きく減少。サービスITは堅調な決済関連がERPの減少をカバーして増加。

(百万円)	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	前年同期比	
当期受注高	56,623	49,804	▲6,819	(▲12.0%)
サービスIT	14,340	15,068	+727	(+5.1%)
金融IT	12,990	9,770	▲3,219	(▲24.8%)
産業IT	29,293	24,965	▲4,327	(▲14.8%)
期末受注残高	79,264	76,410	▲2,853	(▲3.6%)
サービスIT	16,293	18,619	+2,326	(+14.3%)
金融IT	22,242	22,722	+480	(+2.2%)
産業IT	40,729	35,068	▲5,660	(▲13.9%)

- ・8ページは第1四半期の受注状況を掲載しています。
- ・第1四半期の「ソフトウェア開発」に係る受注高は、前年同期比12.0%減の498億円となりました。営業活動が困難になる等、より厳しくなるであろうと想定していた中で、全体としては概ね想定していた結果となりました。金融ITがやや厳しかったところはありませんが、サービスITは受注高、受注残高ともに決済関連が堅調に推移し、ERPの減少を補う結果となりました。
- ・また、期末受注残は産業ITの減少が大きいため、第2四半期はしっかり積み上げていく必要があると考えています。
- ・以上が、第1四半期決算の実績に関する説明となります。

2021年3月期第1四半期 業績概要

2021年3月期 業績見通し

参考資料

・それでは、通期業績見通しについてご説明します。10ページをご覧ください。

2021年3月期業績予想の前提条件

～新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて～

2021年3月期業績予想の前提条件 ※2020年5月12日公表内容から変更なし

- ・現時点において新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期を合理的に見通すことができないため、確度の高い業績予想の算出は困難。
- ・2021年3月期の業績予想は、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響が第2四半期中から収束に向かい、経済活動が徐々に回復。第3四半期から、当社グループの事業環境が正常化」の仮定で算出。
- ・実際の新型コロナウイルス感染症拡大の収束状況等によっては業績予想を変更する可能性あり。

- ・第1四半期の連結業績 : 概ね通期業績予想に沿って進捗していると認識。
- ・事業環境に対する見方 : 先行き不透明ながら上記の内容から変更なし。

2021年3月期通期業績予想の変更なし。

なお、第1四半期の状況等を踏まえ、
2021年3月期第2四半期（累計）の連結業績予想を公表しています。

（参考）当社グループの事業活動の状況等

- ・新規顧客への提案活動等、営業活動の一部への影響がすでに生じているが、5月の緊急事態宣言が解除されたことにより、企業活動が再開し、非対面の工夫もあり営業活動は徐々に戻りつつある。
- ・短期的には顧客のIT投資抑制傾向は強いが、中長期視点でのDX推進を目的としたIT投資に関する関心の高さは変わらず、引き合いも徐々に増えつつある。

- ・期初にもお示した2021年3月期の業績予想の前提条件について再掲していますが、現時点でも同じ状況を想定しています。
- ・現時点において新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期を合理的に見通すことができないため、確度の高い業績予想を算出することは困難な状況であり、従って2021年3月期の業績予想は、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響が第2四半期中から収束に向かい、経済活動が徐々に回復し、第3四半期から、当社グループの事業環境が正常化する」という仮定のもと、算出しています。
- ・また、新型コロナウイルス感染症拡大の収束状況等によっては、今後、業績予想を変更する可能性がある点、引き続きご理解いただきたく存じます。
- ・その上で、第1四半期の連結業績や今後の事業環境に対する見方を踏まえて、2021年3月期の通期業績見通しについては、現時点で期初計画からの変更はありません。
- ・なお、今回、第1四半期の状況等を踏まえて、期初時点では非開示としていた上期の業績予想について開示しております。15ページ以降を適宜ご参照いただければと存じます。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を第2四半期まで見込み、前期比減収減益の計画。
- ・収益性重視の経営方針を堅持し、営業利益率は10%を維持。

(百万円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 計画	前期比	
売上高	443,717	440,000	▲3,717	(▲0.8%)
営業利益	44,839	44,000	▲839	(▲1.9%)
営業利益率	10.1%	10.0%	▲0.1P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	29,411	29,500	+89	(+0.3%)
当期純利益率	6.6%	6.7%	+0.1P	—
1株当たり当期純利益 (円)	116.78	117.86	+1.08	(+0.9%)
ROE	12.5%	11.8%*	▲0.7P	—

*2021年3月期のROEは、試算値。

- ・2021年3月期の通期業績見通しは、売上高が前期比0.8%減の4,400億円、営業利益が前期比1.9%減の440億円です。収益性を重視する経営方針を堅持する方針であり、営業利益率10%を維持したいとの考え方に変わりはありません。
- ・また、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比0.3%増の295億円の計画です。
- ・景況感は依然として不透明な状況にありますが、引き続き期初計画の達成確度をより確かなものにするため、収益性重視の上で案件獲得・受注積上げ等を推進してまいります。
- ・なお、当期も総還元性向を採用していることに伴い、5月に総額約30億円の自己株式の取得を行いました。これによって、期初計画値を前提とする総還元性向は40.0%となる見込みです。
- ・以上で、説明を終了させていただきます。

(百万円)		2020年3月期 実績	2021年3月期 計画	前期比	
サービスIT	売上高	125,518	131,500	+5,982	(+4.8%)
	営業利益	8,198	8,500	+302	(+3.7%)
	営業利益率	6.5%	6.5%	±0.0P	-
BPO	売上高	33,699	33,500	▲199	(▲0.6%)
	営業利益	2,622	2,600	▲22	(▲0.8%)
	営業利益率	7.8%	7.8%	±0.0P	-
金融IT	売上高	114,472	115,000	+528	(+0.5%)
	営業利益	14,936	15,300	+364	(+2.4%)
	営業利益率	13.0%	13.3%	+0.3P	-
産業IT	売上高	202,701	194,000	▲8,701	(▲4.3%)
	営業利益	19,159	17,900	▲1,259	(▲6.6%)
	営業利益率	9.5%	9.2%	▲0.3P	-

サービスIT：子会社の新規連結影響等の減少を決済ビジネス、クラウド等のIT投資の取り込みにより吸収し、増収増益の計画。
 BPO：新規受注への影響はあるも、事業環境変化の影響は軽微と想定し、売上・営業利益ともに微減の計画。
 金融IT：根幹先顧客のIT投資需要の取り込みや、付加価値ビジネスの推進、生産性改善等により増収増益の計画。
 産業IT：製造業や中堅中小企業のIT投資抑制の影響を想定し、減収減益の計画。

(説明省略)

2021年3月期第1四半期 業績概要

2021年3月期 業績見通し

参考資料

(説明省略)

2021年3月期上期

業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）

(百万円)		2020年3月期 上期	2021年3月期 上期	前年同期比	
売上高		216,296	210,000	▲6,296	(▲2.9%)
営業利益		19,100	17,500	▲1,600	(▲8.4%)
営業利益率		8.8%	8.3%	▲0.5P	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		13,266	12,000	▲1,266	(▲9.5%)
四半期純利益率		6.1%	5.7%	▲0.4P	-
主要セグメント別					
サービスIT	売上高	59,867	64,000	+4,133	(+6.9%)
	営業利益	2,457	2,500	+43	(+1.8%)
	営業利益率	4.1%	3.9%	▲0.2P	-
BPO	売上高	16,221	16,700	+479	(+3.0%)
	営業利益	993	1,200	+207	(+20.8%)
	営業利益率	6.1%	7.2%	+1.1P	-
金融IT	売上高	55,456	53,000	▲2,456	(▲4.4%)
	営業利益	6,925	6,400	▲525	(▲7.6%)
	営業利益率	12.5%	12.1%	▲0.4P	-
産業IT	売上高	99,413	91,000	▲8,413	(▲8.5%)
	営業利益	8,512	7,400	▲1,112	(▲13.1%)
	営業利益率	8.6%	8.1%	▲0.4P	-

(説明省略)

2021年3月期下期

業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）

(百万円)		2020年3月期 下期	2021年3月期 下期*	前年同期比	
売上高		227,420	230,000	+2,580	(+1.1%)
営業利益		25,739	26,500	+761	(+3.0%)
営業利益率		11.3%	11.5%	+0.2P	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		16,144	17,500	+1,356	(+8.4%)
四半期純利益率		7.1%	7.6%	+0.5P	-
主要セグメント別					
サービスIT	売上高	65,650	67,500	+1,850	(+2.8%)
	営業利益	5,741	6,000	+259	(+4.5%)
	営業利益率	8.7%	8.9%	+0.2P	-
BPO	売上高	17,478	16,800	▲678	(▲3.9%)
	営業利益	1,629	1,400	▲229	(▲14.1%)
	営業利益率	9.3%	8.3%	▲1.0P	-
金融IT	売上高	59,016	62,000	+2,984	(+5.1%)
	営業利益	8,010	8,900	+890	(+11.1%)
	営業利益率	13.6%	14.4%	+0.8P	-
産業IT	売上高	103,287	103,000	▲287	(▲0.3%)
	営業利益	10,646	10,500	▲146	(▲1.4%)
	営業利益率	10.3%	10.2%	▲0.1P	-

© 2020 TIS Inc.

*下期計画は通期計画から上期計画を控除したものです。

16

(説明省略)

2021年3月期第1四半期 プレスリリース/お知らせ①

発表日付	タイトル
2020年4月1日	TISおよび連結子会社の人事異動のお知らせ
2020年4月2日	TIS、「SAP S/4HANA®」と「UiPath」を連携する「SAP S/4HANA向けRPA汎用コンポーネント」を提供
2020年4月3日	TIS、「Windows Virtual Desktop」の取り扱いを開始
2020年4月7日	AJS、人事評価システム「P-TH」のクラウドサービス『P-TH+』を提供開始
2020年4月8日	新型コロナウイルス感染症に関する当社グループの対応について
2020年4月16日	新型コロナウイルス感染者の発生について
2020年4月17日	大日本印刷、アグレックスのベトナム子会社と資本業務提携を実施
2020年4月20日	TIS、自然言語処理で企業名認識を行うための辞書「JCLdic」を無償公開
2020年4月20日	ネオアクシス、経費管理クラウド「Concur Expense」の中小企業向け導入支援サービスを提供
2020年4月27日	クオリカ、株式会社ソラコム「SPSパートナー」に認定
2020年4月28日	千代田化工建設の子会社のIT事業を承継した新会社の社名について
2020年4月28日	クオリカ、CYBOZU AWARD 2020にて、『セールスアドバイザー・オブ・ザ・イヤー』を受賞
2020年5月7日	クオリカ、AIエンジニア支援を付加したデータレイクサービス「XLake」を提供開始
2020年5月8日	クオリカ、「サイボウズ オフィシャル ゴールドパートナー」に認定
2020年5月11日	TIS、量子コンピュータのソフトウェアを展開するシンガポールのスタートアップ企業「Entropica Labs社」と資本・業務提携
2020年5月12日	剰余金の配当（増配）に関するお知らせ
2020年5月12日	定款の一部変更に関するお知らせ
2020年5月13日	自己株式立会外買付取引（T o S T N e T - 3）による自己株式の買付けに関するお知らせ
2020年5月14日	自己株式立会外買付取引（T o S T N e T - 3）による自己株式の取得結果及び取得終了に関するお知らせ
2020年5月15日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2020年5月28日	インテックと慶應義塾大学SFC研究所「地域ICTプラットフォームラボラトリ（仮称）」を開設
2020年6月1日	TISおよび連結子会社の人事異動のお知らせ (PDF: 149KB)
2020年6月1日	AWSの「2020 APN AWS Top Engineers」にTIS社員が選出
2020年6月3日	アグレックス、ランドスケープが保有する法人データベースLBCを活用したデータクレンジング・名寄せソリューション「Precisely Trillium B2B Edition」を提供開始

(説明省略)

発表日付	タイトル
2020年6月5日	TISの「データ統合・利活用プラットフォームサービス」に3つの新メニューを追加
2020年6月10日	TIS、メジャーアップデートした与信管理ソリューション「SCORE LINK Ver.10」を提供開始
2020年6月11日	ネクスウェイ、犯罪収益移転防止法 施行規則改正に対応した『本人確認BPOサービス』を提供
2020年6月15日	TISとWarrantee、健康増進をサポートするサービス「ケアチョイス」を提供
2020年6月22日	TIS、総務省の統一QR「JPQR」普及事業のWEB受付システム構築を支援
2020年6月24日	TISおよび連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2020年6月24日	TIS、国際会計基準適用企業の決算書を日本会計基準に変換する「決算書日本会計基準化サービス」を提供開始
2020年6月25日	横浜銀行とFRONTEO、N T Tデータフォース、インテック CRMシステム上にAIを活用した営業応接記録チェック機能を共同で開発
2020年6月26日	ネオアクシス、組立加工製造業向けERP「InforCSI」の体感型PoCサービスを提供開始
2020年6月30日	TIS、川崎重工業のSAP S/4HANA®マイグレーションのアセスメントを支援
2020年6月30日	インテック、「SuperStream Partner Award 2020」で「Promotion Award」を受賞

(説明省略)



<ロゴマークに込めた思い>

新たなる挑戦の場を表現する「オーシャンブルー」と、堅実さと確かな技術の裏付けを表現する「インテリジェントグレー」の2色で表現されるロゴマークには、私たちのコアコンピタンスである『IT』2文字を包含しています。グループ各社が異なるエキスパートであり、その集合体としてのTISインテックグループの一体感、そして未来へ向かって進み続ける躍動感を表現しています。

<ブランドメッセージ「Go Beyond」>

現状に満足せず、常に新たなチャレンジを求めて「その先に向かって」歩み続ける。クライアントの課題をクリアするだけでは満足せず、クライアントのさらにその先にあるお客様のニーズを先取りして、「一歩進んだ提案をしていく」という当社グループの強い意思を表明しています。

(説明省略)